

# 秋号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所  
 連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17  
 TEL 924-2194 FAX 924-2195

## 【みどりの教室】

日時：令和3年1月24日(日)  
 10:00～12:00、14:00～16:00  
 場所：とんがりふれあい館ホール  
 定員：各7名  
 内容：季節の寄せ植え、緑の相談  
 申込期間：令和3年1月5日(火)9:00から  
 令和3年1月14日(木)17:00まで  
 申込方法：電話又は窓口で受付。  
 定員を超えた場合は抽選になります。

**\* 当日検温とマスクの着用をお願いいたします。**

## 【記念樹交付日】

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹申請者

- ①日時：令和2年10月25日(日)10:00～15:00
- ②日時：令和2年11月15日(日)10:00～15:00
- ③日時：令和3年3月14日(日)10:00～15:00

**\* 市内に住宅を新築または購入された方へ苗木を  
 1本プレゼントしています。**

**申請期間は新築または購入日から1年以内です。**

## My ガーデニング

・・・季節のワンポイントアドバイス

### 【水やり】

今年の梅雨は長雨が続き、その後は異常とも思えるような高温少雨が続きました。植物は相当なダメージをうけたと想像されます。一日水やりをさぼっただけで、萎れて葉が茶色になってしまったという方もいるかもしれませんね。特に鉢植えの場合は端的です。いかに水分が必要かと思知らされる夏でした。これからの季節は、温度も下がり始めたので水やりも楽になります。しかし、これから植えこんだ場合でもしっかりと水分が根まで届くようにしないと効果はありません。夏場と違い、日中にあげるようにします。樹冠から全体に水をあげてください。常緑樹は特にですが、落葉樹でも秋遅くから冬の間でも水分は必要です。先日、記念樹をいただき、植えこんだ方から連絡を受けました。土壌を入れ替え、水やりもしっかりやっておいたら、ヤマボウシがびっくりするくらいに育ったということでした。乾燥、雑草などを抑えそして地面の凍結を防ぐ為には、腐葉土などでマルチング(土壌表面を被う)をすると効果はあります。

### 【植替え】

これからの時期、常緑広葉樹は、なるべく早く行います。サザンカやキンモクセイなどが園芸店の店先に並びますが、寒さに対しては決して強いわけではありません。ですから、冬が来る前に新しい根を伸ばすことが大事になります。寒さを感じるようになった場合は、来春まで待ったほうが無難です。常緑針葉樹は、冷え込んで霜が何度か降りてからのほうが枯れにくいです。落葉樹は、10月末の落葉後から行えます。ただし、カエデ類は遅くとも年内に終わらせておくようにします。年明け以降に植え替えると、切り口から樹液がにじみ出て樹勢が弱ってしまいます。ボケやボタンやシャクヤクは10月の早い時期に植え替えを行います。前回の号で書いたサルスベリやザクロは同じ落葉樹でも、これからは植え替えないほうが良いですね。来春の芽が動き出し始めるころが、適期になります。同じ落葉樹でも、その性質の違いから作業時期は変わってきます。作業は時期、植えこむ土壌、水やりが特に大切です。

**【肥料】**

多くの樹種では必要はありません。チツソ成分の多いものを与え続けると、いつまでも育ち続けて、寒さに対するの抵抗力がなく、被害を受けてしまうことがあります。葉の色が悪いなどの場合には、チツソ成分の少ない有機質肥料を少しだけあげます。本格的な施肥は来年の 2 月ごろに寒肥として与えるようにします。

**【病害虫】**

マツ類に食害を与える**マツカレハ**は、毛虫の状態越冬し、来春以降に被害を拡大します。また、卵や蛹で越冬するものもあります。見つけたい取り除きます。幼虫の場合は殺虫剤の散布が効果的です。**アブラムシ**や**カイガラムシ**は防除が厄介ですが、冬季だけに使用できる薬剤(マシン油乳剤など)もあります。病気は予防が一番大切なので、落ち葉などはきれいに掃き集めて処分します。そうすることで、病害虫の越冬を少なくすることが可能です。カエデ類やイチジクの幹に入る**カミキリムシ**が多く見られます。空いた穴からフラス(木くずや糞)が出ているときには、スプレー式の殺虫剤を穴の中に噴射します。そして、穴をふさいでおくと傷口からの腐朽も併せて防げます。

**【ハムシの被害】** 食害されたヒイラギモクセイ

近頃、多くの場所で発生が見られます。この公園内でもサングジュやヒイラギモクセイに大量発生し、葉が食害され樹木の成長も阻害され美観も損なわれている状態です。防除方法としては見つけ次第、成虫または幼虫を取り除くことと薬剤散布です。ただし、この害虫に対して登録されている薬剤が少ないので使用は面倒かもしれせん。

**【剪定】**

常緑広葉樹は、これからの時期は幹に近い、懐の弱っている枝や徒長枝を切る程度にします。切りすぎると弱ってしまい枯れてしまうこともあります。針葉樹もこの時期からは強い剪定は控えます。来年の新芽の伸びが悪くなってしまいます。マツなどは混みすぎた枝や葉を少なくして風通しをよくし、風害や雪の重みから枝を守り、綺麗な樹形を作っていきます。コニファー類は、来春まで待って刈り込んだほうが無難です。落葉樹は、これから強い剪定ができる適期となり、太い枝を切ることも可能になります。だからと言って、むやみやたらと切っていくわけではありません。切ることによって樹勢が落ちたり、樹形が取り返しのつかないような状態になってしまいます。また、花芽が少なくなったり、着きが悪くなったりします。強い剪定をすれば、強い枝が出るようになってしまい、悪循環になってしまいます。出来れば毎年弱い剪定を行って樹形を保つことが一番大切です。落葉樹の剪定ほど難しい作業です。

**【身近な樹木の紹介】****ソゴ**

公園内の茶室(麓山荘)にも植栽されています。モチノキ科モチノキ属の常緑広葉樹です。関東南部以西の山に自生しています。雌雄異株のため、すべての木に実がつくわけではありませんが、これからの時季は赤く色づいた実がぶら下がった姿がとても綺麗です。この地域でも人気があり、庭などにも多く植栽されています。樹高も 7 m 位までしか育たず、成長もゆっくりなので、個人の庭にも用いられ、そのほかの落葉樹との相性もよく、雑木の庭にはかかせない樹種です。